

# 北足立北部退職校長会 会員だより

第 42 号

発行責任者 大 菅 建 男  
印刷所 吉 野 印 刷

## コロナ禍の一年

会 長 大 菅 建 男

本会の副会長の小古瀬健治先生が、八月三十一日逝去なさいました。突然の訃報に会員一同驚くと共に、深い悲しみに包まれました。

先生は、大変誠実な人柄で気配りのできる方でした。

会の運営、事業の進捗のために献身的に尽くしていただき本当にありがとうございます。

昨年の本会の「会員だより」で先生は詩人の吉野弘の『祝婚歌』の

正しいことを言うときには

少しひかえめにするほうがいい

正しいことを言うときには

相手を傷つけやすいものだと

気付いているほうがいい

を心に残る言葉として引用されています。

正しいことを伝えるときには相手の立場や気持ちを尊重することが大事だと改めて教えられた思いがします。

私も、先生のこの思いを今後の会の運営発展のために生かしていきたい

と思います。

会員一同、謹んで哀悼の意を表します。

本年は、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。

鴻巣班退職校長会・上尾班退職校長会・北足立北部退職校長会・埼玉県退職校長会の総会はずべて中止となりました。今までになかったことであり、大変残念でした。

コロナ、コロナでいろいろなところに影響が出ました。学校の方は三か月に渡る長期休校となりました。

高校野球の方は春の選抜大会中止、夏の甲子園大会中止（代わりに甲子園交流試合を実施）、大相撲の方も春場所（大阪府立体育館）は無観客開催、夏場所（両国国技館）は中止、名古屋場所（特別開催とし国技館）も無観客開催、

秋場所（国技館）は人数制限で開催。私たちの日常生活もいろいろな制約を受け行動しづらい面も多々ありました。

本会の活動も六月から再開されました。役員会等の開催にあたって、三密を避け感染防止のため、人数・会場にも配慮しなければならず、マスク着用・消毒実施は当り前のこととなりました。

本会の事業を推進する「三委員会」の一つ「懇親旅行委員会」では、バスを利用しての一泊旅行は現状では無理であると中止となりました。平賀委員長さんはじめ委員の皆さんの苦渋の選択でありました。

「彩の国教育の日」協賛の現職・退職教育推進協議会は、県退職校長会の目玉事業の一つですが、十支部のうちでは実施しないところが多々あるとのことでした。

本支部では、「教育推進委員会」の佐藤委員長さんをはじめ委員の皆さんの協力のもと、参加者数を例年の半分に絞り、コロナ対策を十分図り、懇親会なしの研究発表・協議のみとし、十月三十日に実施することになりました。

ところが、直前になり諸般の事情により急遽中止せざる得なくなりました。誠に残念でした。関係者の皆様のこれまでのご苦労に心より感謝いたします。

「会報委員会」では、誌面をどう埋めるかという課題の中で青木委員長さんをはじめ委員の皆さんの協力のもと立派に発行できました。

なかなか新型コロナウイルスの感染が収束できない状況の中ですが、「あわてず、あせらず、あきらめず」日々精進してまいります。

## 健康寿命を長く保ちましょう

副会長 黒 瀬 任 通

今年令和二年は、私たちが未だかつて経験したことのない「新型コロナウイルス」の世界的蔓延」という大変な事態に飲み込まれてしまった年でした。そんな中であって、健康を保ち、元気で毎日を過ごすことの大変さ・重要さ・有難さを、身に沁みて感じさせられました。

今や日本人の平均寿命は、男性81歳、女性87歳となっています。「平均寿命」とは「その年に生まれた子ども（0歳児）が何年生きられるかを表した数値」で、「健康寿命」とは「健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間」すなわち『自立して健康で生きられる期間』ということだそう。そうであるならば、当然のこと健康寿命を長く保ちたいものです。

健康維持の基本も、よく食べる・よく寝る・よく体を動かすですが、人と出合い・会話し、頭を使い気を遣い、気分転換を図ることもとても重要です。

日本ではこれから先、新型コロナウイルスが無くなることはないでしょう。この病原菌がいつも周りにあることを意識しながら、我ら退職校長会においても、安全対策を十分にしながら新しい活動様式を創り出して、元気に楽しく、みんなで活動してまいります。

# 北足立北部だより

井 関 由美夫

## ◇北足立北部定期総会中止

令和二年度定期総会は、新型コロナウイルス感染症防止のため三月二十八日(土)の第三回理事会に諮り、中止となりました。また、同理事会に於いて、令和元年度事業報告・決算報告、新年度事業計画・予算が、総会に代わり承認されました。

令和二年度総会資料及び名簿は、六月中に会員へ配付を完了しました。

本年度新会員は、鴻巣班二名、上尾班六名、合計八名の皆様が入会されました。会員総数二百四十一名です。

本年度の役員は、昨年度に引き続きです。

○会 長 大菅建男

○副会長 黒瀬任通・小古瀬健治

○正・副会長以下の役員

幹事 (長) 井関由美夫・(会計)

井原清子・(庶務) 福田安孝

(委員長) 平賀健郎・佐藤豊

明・青木慶一(上尾班幹事

長) 小川久雄(鴻巣班幹事

長) 村尾章平

監事 清水保義・小田嶋美和子

理事 総会資料各委員会名簿に表記

顧問 石原 完

○第一回正副会長・幹事会

○第一回理事会・委員会

六月十三日(土)上尾公民館

議題一 本年度事業計画の具体化

二 予算執行について

三 委員会の活動内容と分担

○第二回正副会長・幹事会

○第二回理事会・委員会

九月五日(土)上尾公民館

議題一 各退職校長会からの報告

二 各委員会の進捗状況について

○教育推進委員会

(長) 佐藤豊明・河合悦子・町田

哲夫・菅田泉・斎藤一彦・田所章

現職・退職校長教育推進協議会の開

催に向けて、新型コロナウイルス感

染防止対策を講じ、準備を進めてき

た。しかし、新型コロナウイルスの

感染の波が収まることなく、やむ

なく中止とした。

○懇親旅行委員会

(長) 平賀健郎・山口秀之助・中野

住衣・長谷川有司・福島美智代・高

野和夫・堀守雄

コロナ感染防止のため中止とした。

○会報委員会

(長) 青木慶一・前島百合子・永江

幸子・青木一弥・坂本孝子・須藤一

幸

会員だより四十二号の企画・編集等

○埼玉県退職校長会総会

六月五日熊谷市で開催予定だったが

ウイルス感染防止のため中止となる。

# 上尾班だより

小川久雄

## ○定期総会

令和二年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から中止。

規約第十条「緊急の場合は、理事会をもつて総会に代える」を適用した。

よって三月七日(土)理事会にて決定

○令和二年度事業の状況

①新会員は六名、会員総計は百十五名

である。(十月一日現在)

②会員だより「あおい」第二十七号を

七月に発行した。

③「会報」第二十八号を令和三年三月

に発行予定

④班内の退職校長と上尾市現職校長と

の懇話会を七月に予定したが、コロ

ナ感染拡大防止のため中止

⑤班内各小中学校長に、通学区域在住

の退職校長会会員名簿を配布

⑥会員研修は三密を避け、バスを利用

した日帰り研修の中止。講演会によ

る研修を実施した。十一月八日

(日)上尾市文化センターにて

「地域の歴史と民俗」の題目。上

尾市教育委員会学校教育部次長、

関孝夫氏より民俗調査、獅子の研

究、摘田等の研究を踏まえた講演

をいただいた。

⑦同好会は、彩光会(写真)とウォー

キング会が稼働しているが、今年は

感染予防のため削減して実施中。

# 鴻巣班だより

村尾章平

## ○定期総会

四月十一日(土)北本市文化センタ

ーで開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、やむを得ず

中止としました。総会資料を配付し会

員の皆様のご理解を頂きご了承いた

きました。本年度五名の喜寿会員の

方々には、御祝い金を自宅まで正副会

長に届けていただきました。新会員は

二名で、会員総数は一二六名です。

○今年度の事業

①第一回役員会

六月十日(水)北本市文化センター

にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感

染拡大防止の為、定期総会と同様に中止としました。

②研修会

九月八日(火)班員の研修会を吹上

の埼玉県防災学習センターで地震体験

暴風雨体験、消火体験、煙体験など、

様々な疑似体験を通して、災害が起き

た時の対応や日頃からの備えを学ぶ予

定でした。しかし、緊急事態宣言・自

粛要請の状況下で会員の健康と安全を

第一に考え止む無く中止としました。

○お悔やみ申し上げます

班会長小古瀬健治氏におかれまして

は、病氣療養の甲斐もなく八月三十一

日にご逝去なされました。ここに哀悼

の意を捧げます。